

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『「プラチナ～」はもう古い?』

2017年7月21日

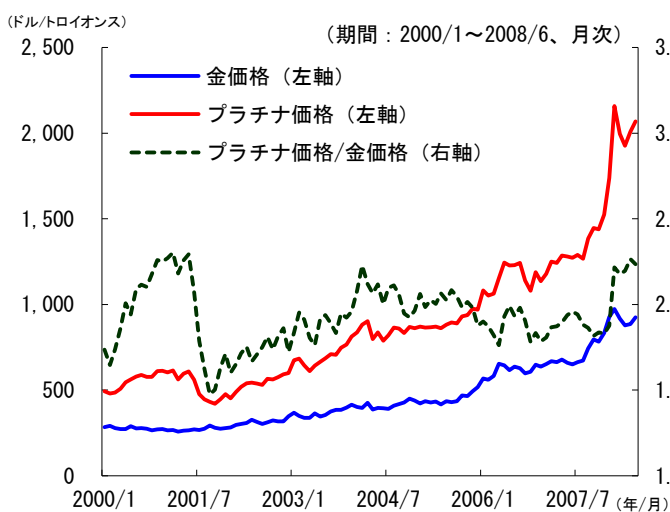
マルチアセット運用部

プラチナ（白金）は貴金属の一つですが、巷間では「プラチナカード」や「プラチナチケット」といった、その希少性や価格の高さを背景に特別な存在を表す接頭語として使われてもいます。そのプラチナが足元で他貴金属との相対的な価値低下が顕著となっています。今回は、このテーマについてお話しします。

プラチナについて簡単に説明しますと、銀白色の光沢のある金属で、化学的に非常に安定的であること、比重が大きい（重い）ことなどが特徴として挙げられます。更に、産出地が偏在していることもこの金属の特徴の一つで、世界生産の約7割が南アフリカ共和国で産出されます。過去プラチナが最も輝いていた時代は、2000年から2008年前半の頃で、その価格は代表的な貴金属である金の約2倍で推移していました（図表1）。

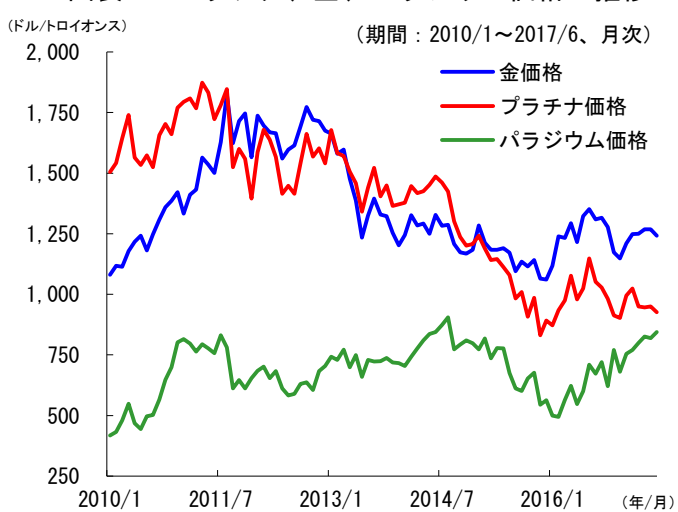
しかし2010年代に入ると、金価格の上昇もありプラチナ価格は金価格に追いつかれ、足元ではプラチナ価格の下落などから金価格に対して約3割のディスカウントで取引されています。また、ややなじみの薄い貴金属のパラジウム（「銀歯」など歯科治療にも使われる金属）と比較しても、2009年3月には5.5倍ほどの価格差があったにもかかわらず、足元では等価に近づいています（図表2）。では、なぜプラチナ価格は下落しているのでしょうか。

図表1 プラチナ価格と金価格の推移



(出所) Bloomberg のデータを基に岡三アセットマネジメント作成

図表2 プラチナ、金、パラジウム価格の推移



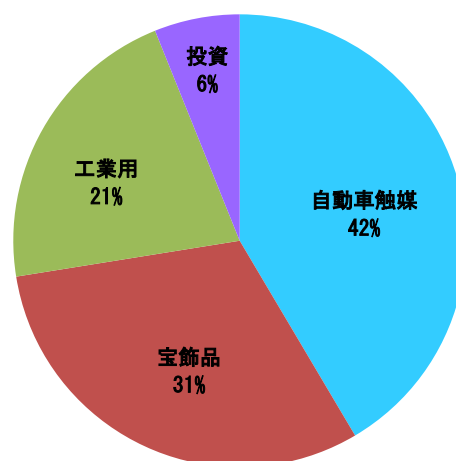
(出所) Bloomberg のデータを基に岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

プラチナは、希少で光沢のある金属としてジュエリーなどに使われるとの認識が一般的ですが、最大の用途は自動車（主にディーゼル車）の排ガス浄化触媒です。2016年では42%が排ガス触媒として使用されました（図表3）。しかし御存知の通り、2015年9月の独フォルクスワーゲンの不正発覚を契機にディーゼル車市場は強烈な逆風にさらされています。今年5月には、ディーゼル車の販売シェアが高い欧州において、自動車を販売するための認証制度を大幅に厳しくする案が合意されました。2016年は50%前後で推移していた欧州主要18カ国の新車販売に占めるディーゼル車の割合は今年4月には46.9%まで落ち込んでおり、今後も更なるシェア縮小が予想されます。

図表3 プラチナの用途別シェア（2016年）



（出所）World Platinum Investment Council のデータを基に

岡三アセットマネジメント作成

この文章を書いている間にも、“独ダイムラー社が「メルセデス・ベンツ」ブランドのディーゼル車 300万台余りをリコール”との報道があり、プラチナの主用途であるディーゼル車の排ガス浄化触媒としての需要は今後も減少傾向を辿る可能性が高いと考えられます。個人的には、プラチナ価格は需要減少により当面は下落基調を辿ると考えており、これに伴って今まで希少性や特別性を表す接頭語として使われてきた「プラチナ～」は今後見られなくなるかもしれません。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。